

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2019年11月2日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙 樫田小夜（特集を取材したディレクター）		
検証テーマ：オープニング、国土交通相が八ッ場ダムを視察、香港デモ 【特集】英語民間試験～導入延期の背景		
報道トピック一覧 <ul style="list-style-type: none"> ・首里城火災 ・首里城復元へ向けて東京で募金活動 ・オープニング ・台風19号21号の被害 ・国土交通相が八ッ場ダムを視察 ・新潟県佐渡市で釣り船沈没事故 ・香港デモ ・シリコンバレーでホームレス急増 ・英国ヘンリー王子がラグビーを観戦 ・千葉県で災害ボランティアに初体験した若者に取材 ・相模原の不明夫婦の捜索が続く ・【特集】マラソンは札幌！迷走の東京五輪 ・【特集】英語民間試験～導入延期の背景 ・スポーツ報道 		
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 <ul style="list-style-type: none"> ・オープニング：結論→特に問題なし 番組のオープニングで金平キャスターが「沖縄の首里城が全焼しました、残念です。心からお見舞い申し上げます。わずか140年前まで4世紀半に渡って独立国として存続した琉球王国のお城でした。沖縄のたどってきた歴史を学べる貴重な遺産でした、沖縄には軍事基地ではなくこのような歴史遺産こそ、作られるべきではないでしょうか。」とコメントしていた。このシーンに当てられた時間は秒で放送法上は特に問題は見られなかった。 ・国土交通相が八ッ場ダムを視察：結論→特に問題なし 八ッ場ダム視察について以下に朱記したVTRが取り上げられていた。 ナレ「一方、赤羽国土交通大臣は今日午前、群馬県の八ッ場ダムなどを視察しました。八ッ場ダムは先月1日から水をためてダムの安全性を確認する試験湛水を行っています。台風19合による降雨では7500立方メートルの水がたまったということです。」 赤羽一嘉(国交相)「たまさかだったと思いますけれども、実験的なああいう状況でありましたので、利根川の大変危機的な状況を救って頂いたのは本当に感謝の思い出いっぱいでした。」 ナレ「また、赤羽大臣は激甚化する災害への対策について各地のダムそれぞれの許容量について今後検証を行う必要があると述べました。」 このトピックに当てられた時間は48秒で放送法上は特に問題は見られなかった。 		

・香港デモ：結論→特に問題なし

香港のデモについて、膳場キャスターの「政府などへの抗議活動が5ヶ月近く続く香港で、今日も抗議集会が開かれ会場周辺で参加者が警察に拘束されるなど、混乱が続いております。」というコメントを受けて、以下に朱記したVTRが取り上げられていた。

"森岡紀人(報告)「いま、集会に参加しに来た人を、警察がひとり今拘束しました。」

ナレ「日本時間午後三時半過ぎ、集会の会場周辺で男性一人が警察に暴力をふるったとして拘束されました。」

"警察官「警告します。」

区議選立候補者「どの法律に違反？」

ナレ「今日の集会は今日24日の区議会議員選挙の民主派の立候補者が演説するという名目で行われましたが、警察は違法な集会だとして解散するよう求めています、区議選を巡っては雨傘運動の元リーダー、黄之鋒氏の立候補が認められておらず、民主的な選挙制度の実現を求めるデモ参加者は強く反発しています。」

このトピックに当てられた時間は58秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】英語民間試験～導入延期の背景：結論→やや不十分

膳場キャスターの「では次の特集です。来年度の大学入試から導入予定だった英語の民間試験について、萩生田文部科学大臣は昨日、導入を延期すると発表しました。振り回された教育現場や、高校生たち。その混乱と、背景に迫りました。」というコメントを受けて以下に朱記したVTRが取り上げられていた。

ナレ「先月、7日。高知県にある土佐高校では、高校2年生の学年集会が開かれていた。その冒頭、」

"教師「起立。礼。」

高校2年主任「えー。今日の11時に、英検の方で重要なお知らせがと。仮予約申し込み期間が変更になって、当初であれば、今日まででしたが、11月の11日の月曜日17時までという変更。えーそれから」

ナレ「学年主任が伝えたのは、大学入試に導入予定だった英語民間試験の一つ、英検の申し込みの延期だ。締め切り当日に学校側に突然送られてきた延期を知らせるファックス。小村校長は、困惑を超え、あきれ果てていた。」

土佐高校 小村彰校長「今更、これしてどうなるんだろうというのが、正直な気持ちですね。はい。」

小村校長「それよりも、締め切りの当日に締め切りを延ばしますっていう、あんまり今まで、考えたことあんまりないですよ。常識的に。」

ナレ「高知県内で有数の進学校として、文武両道をモットーとしている土佐高校。」

"生徒「I as in different・・・」

ナレ「英語民間試験を巡り、これまでにない混乱が広がっていた。」

"担任「えー文系、理系ってあると思うけど、文系の方か。」

生徒「文系ですね。高1の時から文系にしようって決めてました。」

ナレ「高校2年生の福川真央さん。この日行われていたのは、担任との進路面談だ。」

"担任「そしたら、もうやるべきところは、英語。」

生徒「英語ですかね。英語。英語もたまたま過去問解いたりもしているんですけど、なんかもっと、リスニングとか、英作文ってそれこそ、配点も高いんですよ。二次の配点も。だから難しいですし、問題も。そこは、しっかり、共通テストってか、民間試験に向けて、勉強していかなくちゃいけないと思いますね。」

ナレ「福川さんは、英語の民間試験導入に、大きな不安を抱いていた。」

福川さん「半年になっても、全然不透明っていうか、予約も、でも予約は始まったし、やらないわけにはいかな

いけど、どうなるか分からないっていう不安が大きいですね。」

福川さん「やれって言われたら、まあ受けますけど、でも、どうしてだろうって思いますし、なんか、やっぱり、意義がまだ高校生には、浸透していない、しきれていない部分があると思うので、」

ナレ「来年度にセンター試験が廃止され、新たに大学入学共通テストが始まる。そこに、導入予定だった英語の民間試験。受験生は、7種類から試験を選択する。4月から12月に受けた2回分の成績が、大学側に通知され、可否に反映される。」

ナレ「1回の受験料は、最低でも5800円。高いものは、25000円を超える。裕福な家庭の子どもは、予行演習をしたうえで、2回の本番の試験に臨むことができるが、経済格差の問題が、指摘されていた。」

ナレ「さらに、地域格差もある。学校によると、高知県で予定されているのは、英検、GTEC、TOEFLの3つのみ。他の試験を受験したい場合は、県外へ行かなければならないという。」

福川さん「なんか、どうせやるんだったら、全部の7つの試験で、全国的に47の都道府県全部で、やってくれた方がありがたいっていう気持ちはあります。」

福川さん「やるには、もっとちゃんと準備をして、整えて、期日まではっきり決めてからやりまーすってことを言って欲しかったし、こう、まだ全然、準備が整ってない中で、こう、はい、なんか、こう背中を押され、背中を押されるっていうか、なんか焦りもありますし、」

ナレ「一方、水泳部でも民間試験を巡り、衝撃が走っていた。」

水泳部員「水泳の県大がかぶるので、GTECの日とかぶってしまうので、」

ナレ「来年、6月に実施される水泳の県大会の日程と、GTECの試験日が重なることが分かったからだ。」

生徒「ちょっとびっくりしましたね。なんかもうちょっと別の日を設けてくれないのかなーって、思ったりして。」

生徒「英検の日も決まっていなかった、ないので、すごい不安でしかないです。」

生徒「2学期まで、まだ何も受験、あのその、英語のやつが取れてない状態で、2学期になるってことになる可能性もあるから。そうなったら、すごい一番心配です。」

ナレ「小村校長は、この事態に。」

小村校長「高校3年生の、特に1学期の大事なところの、いろんな活動が、制限されてしまう。で、そのことに非常に危機感を覚えました。」

小村校長「高校生活でしか、できないことを十分に経験させながら、成長させていくって、いう、それを考えながら、当然やってきたわけですよ。でも、そういうその、高校生のライフサイクル、スクールサイクルっていうことの、それを、正直壊されるんですよ。高校2年生の今の時期に、大学どこを選んで、自分は今の時点で英語の民間試験について、どうしなきゃいけない。決めなさいなのです。これは我々の今までのあり方からすると、大きく違うんですね。で、そういうことにつながるっていう発想を、システム設計された方は、お考えになっていたのかな。っていう。」

ナレ「先月、21日、英語民間試験を巡り、全国高等学校協会が主催する緊急のシンポジウムが都内で開かれた。パネリストには、文部科学省、大学入試センター、民間の業者、5社が並んだ。文部科学省に対し、来年度からの実施の延期を繰り返し要望してきた全国高等学校長協会は、シンポジウムでも。」

全国高等学校長協会 萩原 聡会長「要望書提出から、すでに1か月以上、経過しましたが、高校現場では収束するどころか、ますます混乱が激しくなっています。」

ナレ「英語民間試験の導入は、大学入試改革の一環だ。」

ナレ「2013年、自民党の教育再生実行本部がまとめた提言書。」

提言書(吹替)「大学において、従来の入試を見直し、実用的な英語力をはかるTOEFL等の一定以上の成績を受

験資格、および、卒業要件とする」

ナレ「教育再生実行本部長を務めた経験もある下村博文元文部科学大臣に、先月 24 日、話を聞いた。」

下村元文部相「高校の授業もそれから、大学の教育方針も含めて、一体的に変えていかないと、大きな時代の変化の中で、日本の子どもたちだけが、ついていけなくなるという危機感の中で、高大接続改革、大学入学試験を変えようと、」

ナレ「下村氏は、大臣だった 2015 年、大学入学共通テストの工程表を取りまとめるなど、大学入試改革を、牽引してきた。」

ナレ「改革では、英語で、読む、聞く、話す、書くの 4 技能を評価する。ではなぜ、民間試験が導入されたのか。」

下村氏「4 技能をです、センター試験で言うと約 50 万人くらいで、同じ日に、同じことをやるっていうのが、なかなか難しい、すでに一部の大学でも導入している民間試験で、ノウハウ的にも大変すばらしいところがたくさんあるから、それを導入したらどうか」

ナレ「来年度からの導入を目指し、進められてきたが、その時期については、」

下村元文科相「本当だったら、もっと前倒しをしなければいけないくらい、世の中の激変の中で、対応していくためにギリギリそれでもいろんな準備とか、コンセンサスを考えると、まあ 2020 年ぐらいまでのスタートにしないと、なかなか理解が得られないだろうということ、」

下村元文科相「まあ当時、文科大臣してた時の危機感として、2020 年スタートは少なくともそれくらいから、始めるべきだというふうに、決めた経緯があります。」

ナレ「下村氏にインタビューをしたその日の夜、民法の BS 番組で、萩生田文部科学大臣のこの発言が飛び出した。」

萩生田氏の発言（吹替）「裕福な家庭の子が回数受けて、ウォーミングアップできるみたいなことが、もしかしたら、あるかもしれないけれど、そこは自分の身の丈に合わせて、2 回をきちんと選んで勝負してもらえば、」
報道特集では、地域格差が指摘されている全国のへき地・離島のおよそ 300 の高校に、アンケートを送った。寄せられた回答に書かれていたのは、来年度からの実施に対する、強い懸念の声だ。」

アンケート（吹替）「離島の生徒は、経済面、肉体面、精神面のすべてにおいて、不利となる。」

アンケート（吹替）「小笠原は、週に 1 度の定期船でしか移動の手段が無い、民間試験を受ける際、7 会場も学校へ通えない状が起き得る。」

アンケート（吹替）「生徒にとって大きな痛手。」

アンケート（吹替）「現行のセンター試験でさえ、へき地、離島の生徒は、受験に際し、大きな負担を強いられています。民間試験では、公平性の担保がなく、まったくもって、不公平な制度であると、言わざるを得ません。」

ナレ「回答を寄せた 52 の高校のうち、来年度からの実施に、賛成は 7 校、どちらでもないは、4 校で、反対は、39 校に上った。」

ナレ「そして、昨日・・・」

萩生田光一文部科学相「これ以上、決断の時期を遅らせることは、混乱を一層、大きく、しかねる、しかねないため、ここに来年度からの導入を見送り、延期することを決断をいたしました。それは・・・」

ナレ「来年 4 月から導入が予定されていた英語民間試験の延期。その理由について、萩生田文部科学大臣は、」

萩生田文科相「現時点において、経済的な状況や、居住している地域にかかわらず、等しく安心して試験を受けられるような配慮など、文部科学大臣として、自信をもって、受験生の皆さんに、おすすめできるシステムにはなっていないと、判断せざるを得ません。高校生について・・・」

ナレ「身の丈に合わせてという自身の発言については・・・」

"萩生田光一文部科学相「私の発言が直接、原因をしたということではありません。」

萩生田光一文部科学相「不用意な発言で受験生の皆さんに不安を与えたのは事実であり、お詫びをして撤回をしたところですよ。」 "

記者「身の丈発言の関係なんですけども、そのこの制度の本当のことを言い当てているのではないのでしょうか？」

萩生田文部科学大臣「全体的にやっぱり不備があるということは、認めざるを得ないと思います。したがって、延期をし、その課題について、あるいは、検証をきちんと行ってですね、今後どういった点を改善すれば、皆さんが限りなく平等に試験が受けれる環境ができるかどうか、こういった点に注力をしてまいりたいと思います。

そのことも・・・」

ナレ「今後、英語の試験の仕組みを抜本的に見直し、新しい制度については、2024年度の導入を目指すとしている。」

ナレ「GTECの運営するベネッセコーポレーションは、おととい、試験日などを発表したばかりだった。突然の延期について、」

ベネッセコーポレーション（吹替）「受験生の皆さまが、安心して受験に臨むことができるよう、準備を進めてきたので、非常に残念に思っています。」

"ナレ「与党からは」

自民党、世耕弘成参院幹事長「受験生の立場に立った非常に思いやりにあふれた決断だったというふうに、思っております。」 "

公明党 斎藤鉄夫 幹事長「準備期間があったにもかかわらず、こういう不安と混乱を招いてしまった。その責任は、政府、文科省にあるわけですので、この点については大いに反省していただきたい。」

ナレ「一方、野党側は、萩生田大臣をはじめ、歴代の文部科学大臣の責任を迫及する方針だ。」

"立憲民主党 安住 淳国対委員長「徹底的な検証と、それから責任迫及をしたいと思います。」

「学生にこれだけ迷惑をかけたんだから、ただじゃ済まさない。」 "

ナレ「昨日は、受験に必要な共通IDの申し込みが始まる日だったが、急遽、中止となった。民間試験を受けるはずだった、高校生たちは」

宮崎日大高校2年「お騒がせというか、ちょっとバタバタしてたけど、結局やらないのかーいみたいな。」

静岡英和女学院高校2年「自習をして、ちゃんと英検の対策をしてきたんですけど、それも全部、踏みにじられたというか、そういう気持ちがあります。」

新居浜東高校2年「ころころ変えられると、いつ準備したらいいのかわからないんで、そこらへんははっきりしてほしいなと思います。」

"新居浜東高校2年「地方は会場、試験会場とかが、少なくって、やっぱりお金がかかるので、無くなった方が、いいなって私は、思います。」 "

ナレ「振り回される高校生たち。」

福川さん「ただいまー」

ナレ「高知県の土佐高校に通う、福川さん。英検を受験しようと決め、春から日々、勉強してきた。延期が決まった昨日、教師から説明があったという。」

福川さん「なんかもう、ざわめいていましたね。驚きと、あーここにきて、延期になるのかっていう。」

ナレ「英語民間試験の導入延期。高校2年生の、福川真央さんは、昨日学校で教師から伝えられた。」

福川さん「何かもうざわめいてましたね、驚きと、なんかあーここにきて延期になるのかっていう。でもそれみんな良かったなと言ってましたけど、でもやっぱり、勉強しなきゃいけないことは、変わらないので、まあし

っかり二次に向けて、共通テストに向けた勉強をしなきゃいけないな」と話しました。」

ナレ「試験の延期はきまったものの、思いは複雑だ。」

福川さん「延期にするにしても、もうちょっと早く、高校2年生に上がる前の段階とかで、言ってくれてたら、時間的余裕もできていただろうし、ここまで混乱も大きくならなかったんじゃないのかな」とも思いますね。」

福川さん「民間試験が導入されるってときも、一方的に通告される形だったんですけども、今回延期ってのもまあ、一方的にまあ言われる形になってしまって、やっぱり憤りは感じてますね。正直、なんか、うーん。割ける時間も変わっていたでしょうし、他教科に。で、やっぱり、居住地で、こう、教育に関して、優劣が付けてしまうのは、本当にどう考えても、おかしいと思うので、それがまあそうですね、まあ対応する時間ができたので、それにしっかり向き合っほしいなって思いますね。」

ナレ「振り出しに戻った英語の大学入試改革。2015年から、2016年にかけて、英語を含めた入試改革を議論していた有識者会議のメンバー、南風原朝和東京大学名誉教授は、民間導入の過程に、問題があったと指摘する。」

南風原朝和東大名誉教授「思考力、判断力とか、方法としては記述式を導入するとか、さまざまな議論があったんですけども、英語の事、4技能のこと、特に民間試験の事について、大きな話題になったことはなかったんですけども、最終報告でも、民間の知見を活用してということで、民間を有効利用しようとはありましたけれども、民間に全てを委ねるといようなことは、話していない。」

ナレ「今回浮上したさまざまな問題は、おととしすでに指摘されていたという。」

南風原教授「2017年の、6月に、国立大学協会が、この案について、民間試験複数という案について、さまざまな懸念を表明しているんですね。その中には、経済格差の問題。地理的格差の問題、試験の間の比較の問題、あの今問題になっていることは、ほとんどすべて挙げられていたわけですね。それに、ちゃんと答えないまま、ここまで来ていると。」

ナレ「受験混乱を招いた英語民間試験の導入。どこで間違えたのか。」

南風原教授「一部の関係者。一部の助言者の声だけに頼って、そこに頼り続けてきた結果だろうと思いますね。そこから見直してほしいと思います。」

VTRを受けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返し広げられた。

膳場「取材した樫田ディレクターです。あの問題が明らかになっているのに、ここまで切羽詰まってから、延期決定、ちょっと憤りも覚えるんですが、樫田さん実際に高校生を取材してみて、何を感じましたか。」

樫田「はい、あの、実際に生活の様子を見させていただいて、まあ彼らの生活っていうのは、まず、受験のためだけにあるわけじゃないんだっていう。ある意味ごく当たり前のことですね。あの今回の入試改革ってのは、思考力や、判断力、そういった事の重要性を掲げているわけですけども、まあそういった力を延ばすことにおいて、日々の生活っていうことこそ、非常に大事ですし、まあ受験のシステムを考えるうえでも、そうしたことをしっかり、意識していくことが重要だと感じました。」

日下部「あの、英語における4つの技能ですか？読む、書く、話す、聞く。これっていうのは、本当に長年にわたる課題でもありますよね。」

樫田ディレクター「そうですね。あのまあ今回取材を通しての英語の4技能の重要性と言ったことについては、それを否定するっていう人はほとんどいませんでした。まあいかにバランスよく、4技能を延ばしていくのかっていうことは、日本の英語教育において、非常に重要な課題であると思います。ただ、教育で4技能を延ばしていくってことと、それをじゃあ大学入試の中で、測っていくのかっていうことについては、まあ必ずしもイコールではないといったような専門家の指摘もあります。」

金平「それにしてもね、樫田さんね、あの、萩生田文科大臣の、あの身の丈発言というのが無かったらですよ、

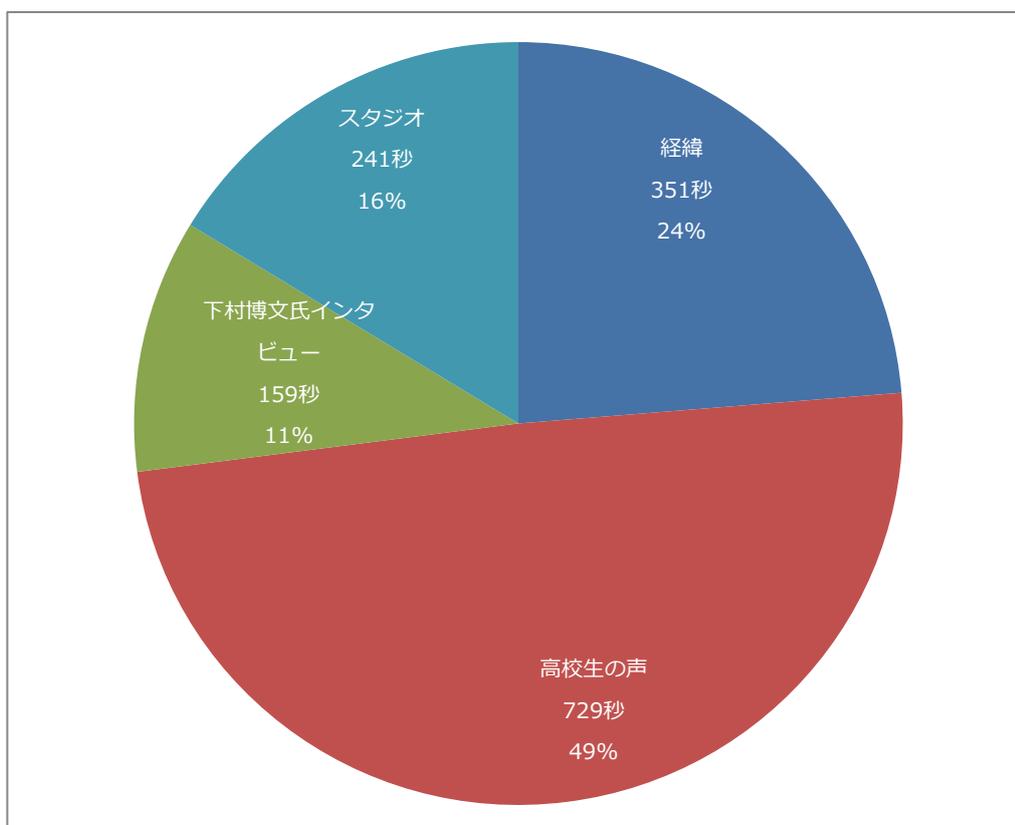
これ今ごろ導入されていたかもしれないって言う風に考えるとですね、とても恐ろしいですよ。」

梶田「そうですね、あの、はじめから取材を通して、あの非常に強く疑問を感じていたのが、まあ今回の英語の民間試験の実施についての責任の所在はどこなのかというところです。あの民間の業者は会場の確保に非常に苦労していて、まあ受験の日程などが確定しないっていった事も問題につながっていました。ただ文科相は常に、民間に整備をお願いすると、いわば民間任せの姿勢だったわけです。」

梶田「まあ今回番組に、寄せてくださったアンケートの中でも、あの試験の公正、公平性をしっかり、こう担保してほしいという答え非常に多くありました。あの、国は平等な学びの機会というのを担保する政策に真摯に取り組むべきですし、あの一格差を助長することは言語道断だと思います。」

膳場「梶田さんありがとうございました。以上特集でした。」

このトピックに当てられた時間は 1504 秒で、経緯や、下村博文氏インタビュー、スタジオでのやり取りそれぞれに当てられた時間及び比率は以下の通りであった。



今回は入試改革の特集ということで、下村博文氏へのインタビューや高校への取材あるいは南風原朝和東大名誉教授への取材などもたくさんあったが、大学側が入試制度をどのように利用するのか、自分たちの大学の入試をどのように構築していくのか、という点はあまり触れられていなかった。

そもそも、大学入試というのは大学にとって「どういった学生を求めているのか」というアドミッション・ポリシーに基づいて構築していくものであるが、肝心の大学側の見解がほとんど取り上げられていなかったのは残念である。

時間がない中で、取り上げられなかったのであれば仕方ない部分もあるが、今回は特集としてしっかり尺をとっているのだから、その中で国立大学や私立大学がこの入試改革を受けて自分たちはどのような学生を求め、どのような入試制度を構築するのか、という点についても触れるべきではなかろうか。

そういった点では放送法第四条一項四号「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論

点を明らかにすること」という点についてはやや不十分だったと言える。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

検証者所感

・ オープニング

番組のオープニングで金平キャスターは「沖縄の首里城が全焼しました、残念です。心からお見舞い申し上げます。わずか 140 年前まで 4 世紀半に渡って独立国として存続した琉球王国のお城でした。沖縄のたどってきた歴史を学べる貴重な遺産でした、沖縄には軍事基地ではなくこのような歴史遺産こそ、作られるべきではないでしょうか。」とコメントしていたが、そもそも首里城というのはもともとは「軍事基地」として作られたものではなかったのだろうか。

また、「独立国」という言葉を用いていたが、その実態は今日の我々が言うところの「独立国」とは随分と違う意味合いのものではないだろうか。